

令和6年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設

公の施設の名称		宝塚市立文化施設(ベガ・ホール、ソリオホール)			
所在地		宝塚市清荒神1丁目2番18号、栄町2丁目1番1号			
指定管理者	団体名	公益財団法人宝塚市文化財団	指定期間	開始日	平成31年4月1日
	所在地	宝塚市栄町2丁目1番1号		終了日	令和6年3月31日
選定方法		非公募	評価実施年	指定期間 5年のうち 5年目	
施設設置目的		宝塚市民の芸術及び文化の向上に寄与するため、宝塚市立文化施設を設置する。			
主な実施事業		(1) 芸術及び文化活動のため、施設をその利用に供すること。 (2) 芸術及び文化の振興に関すること。 (3) 芸術及び文化活動の育成に関すること。 (4) 芸術及び文化に関する情報の収集及び提供に関すること。 (5) 前各号に掲げるもののほか、市長が必要があると認める事業			

2 利用状況(目標と実績)

成果指標	単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
		目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
a 利用件数	件	5,300	3,711	5,300	4,206	5,300	4,937	5,300	5,028
b 稼働率	%	—	35	—	41	—	43	—	44
c 事業参加者数	人	—	7,244	—	21,205	—	28,053	—	30,324
d									
e									

3 指定管理業務にかかる収支状況

(単位:千円)

区 分		令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度決算	令和5年度決算	
収入計		A	232,332	258,310	263,894	276,120
	指定管理料		174,768	179,703	174,868	181,847
	利用料収入	C	31,477	48,848	59,009	56,069
	自主事業収入		4,428	7,722	10,553	12,517
	受取補助金等		6,179	6,222	9,338	5,272
	その他		15,480	15,815	10,126	20,415
支出計		B	232,332	258,310	263,894	276,120
	指定事業費		218,008	241,558	247,071	256,959
	内、人件費	D	99,899	106,085	106,789	113,073
	内、再委託料	E	54,367	57,741	60,909	60,048
	自主事業費		14,324	16,752	16,823	19,161
事業収支		A-B	0	0	0	0
利用料金比率		C/A	13.5 %	18.9 %	22.4 %	20.3 %
人件費率		D/B	43.0 %	41.1 %	40.5 %	41.0 %
再委託費比率		E/B	23.4 %	22.4 %	23.1 %	21.7 %

・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。

・着色セルは、自動計算としている。

・事業費は、前年度以前の決算を記載する。

補足説明	出向市職員 再任用1 決算については、消費税の会計処理は税抜方式を採用
------	--

4 評価

注) 自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

計画		評価項目	評価基準	自己評価	所管評価
①サービスの履行の確認	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A	
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A	
	外部委託	事業計画に即し、計画的に研修等を実施している。	A	A	
		外部委託の内容は、事前に市の承認を受けており適切である。	A	A	
	法令遵守等	外部委託業者に対して協定書等を遵守させている。	A	A	
		法令、条例等に基づき、必要な点検、報告等を行っている。	A	A	
	個人情報保護	個人情報保護に関する法令等を遵守している。	A	A	
		個人情報の漏洩、滅失等の事故防止対策を講じている。	A	A	
	情報公開	情報公開に関する法令等に準じた運用を行っている。	A	A	
		協定書に従い、情報を適切に管理し、公表している。	A	A	
	管理記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A	
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A	
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A	
市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。		A	A		
緊急対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A		
	緊急時のマニュアルが整備され、定期的に訓練を行っている。	A	A		
財務状況	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行った。	A	A		
	団体の財務状況は、業務の継続が可能な状態である。	A	A		
②サービスの質の評価	《 総 括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準18項目／本施設 項目】	A	A	
	施設管理	協定書に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A	
		事故防止及び安全確保のために必要な対策を講じている。	A	A	
	利用者対応	利用許可、案内等を迅速かつ適切に行っている。	A	A	
		利用者に対して設備、備品等を適切に提供している。	A	A	
	事業運営	言葉使い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A	
		事業計画に即し、受託事業を実施している。	A	A	
	維持管理	施設の目的に添った自主事業を実施している。	A	A	
		事業内容がサービス水準の向上に寄与している。	A	A	
	環境配慮	仕様書等に従い、清掃、警備、衛生管理を適切に行っている。	A	A	
		仕様書等に従い、施設や設備の保守管理を行っている。	A	A	
	広報活動	備品台帳に基づき、備品を適切に管理している。	A	A	
		協定書等に従い、適切に修繕を行っている。	A	A	
③安定性	《 総 括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準18項目／本施設 項目】	A	A	
	経理事務	省エネルギー、省資源等環境への配慮がなされている。	A	A	
		事業の開催案内、ホームページの管理等を適切に行っている。	A	A	
	予算執行	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A	
		要望、苦情等を整理し、遅滞なく市に報告している。	A	A	
	経費縮減	利用者アンケート調査等を実施し、その結果が妥当である。	A	A	
		利用者数、稼働率等は、目標に対し妥当な水準である。	B	B	
	収支状況	《 総 括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目／本施設 項目】	A	A
		《 総 括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目／本施設 項目】	A	A
	指定管理者所見 (成果、課題、今後の改善点等)	新型コロナウイルス感染症の位置づけが5月に変更されたことにより、施設の利用状況等については、コロナ禍以前の状態に回復してきた。			
		ソリオホールは開館30年に当たり、周年ロゴを作成して、多彩な事業展開を行った。開館当初から続く「宝塚ソリオ寄席」では、特別バージョンとして地元出身の落語家をゲストに迎えて2回公演を行い、2回公演の両方にご来場いただいた方に、ソリオ名店会で使える優待券をプレゼントするなど、ソリオ名店会とも連携し、地域のにぎわいづくりにつながる取組を行った。			
	施設所管課所見 (成果、課題、今後の改善点等)	その他、「宝塚伝統芸能フェスティバル」については、事業の持つ価値の向上や持続可能な事業運営の観点からリニューアルを図った上で、開催した。			
		財務面では、光熱費の高騰やインボイス制度の導入などに伴い、想定外の負担増もあったが、引き続き、助成金の獲得や経費の圧縮に努め、収支悪化の抑制を図った。			
	施設のハード面では、両施設とも設置から年数を重ね、不具合箇所が多数生じている。簡易な不具合は適宜対応しているが、大規模修繕については、優先順位をつけて市に要望し、協議を重ねている状況である。				
	軽微な不具合であっても、場合によっては、休館を余儀なくされることも考えられるため、利用者に迷惑がかからないよう、日々の管理運営に細心の注意を払い、大規模修繕が実施されるまでの間、音響や照明等の代替機材の確保など、不測の事態に備える必要がある。				
	当指定管理者は、本市における文化振興全般を熟知し、芸術文化事業の経験も豊富である。令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、指定管理者所見のとおり、様々な事業を企画することで利用件数、事業参加者数ともに前年度より増加したことを評価する。また、老朽化した施設・設備に対する応急対応など、市と連携を取りながら施設の管理運営も円滑に行っている。今後も引き続き、市民の芸術文化活動の拠点施設として、なお一層努力していただくことを期待する。				
	前年評価	A	総合評価	A	

※評価区分

評価基準:	S	=	協定書等の水準を大きく上回っており、優良である。
	A	=	協定書等の水準を満たしており、良好である。
	B	=	協定書等の水準を満たしているが、一部改善が望ましい。
	C	=	協定書等の水準を満たしておらず、改善が必要である。
《総括》:	S	=	評価基準が全てA以上であり、かつSが過半数である。
	A	=	評価基準のうちBが3割未満で、Cがない。
	B	=	S、A、C以外
	C	=	評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価:	S	=	自己評価、所管評価の《総括》にB・Cが含まれず、かつSが過半数である。
	A	=	自己評価、所管評価の《総括》にCが含まれず、Bが2つ以下である。
	B	=	S、A、C以外
	C	=	自己評価、所管評価の《総括》にCが2つ以上含まれる。